

(7月)

2024-7-2

## 07【街の散策からの気づき発見】

「春日部市旧庁舎跡の新中央町第1公園計画」

会員 K.T.

春日部市の街づくりが少しずつ形になってきている。前中央町第1公園の跡地に春日部市立医療センターが建ち、市立病院跡地に新庁舎が建った。現在ある旧庁舎は、やがて取り壊され、新中央町第1公園が建つ計画になっている。敷地の三角トレードが春日部駅の高架事業と並行して進んでいる。旧庁舎は昭和45年(1970)に建設され、概ね、53年の歴史をもつ。時代的には日本の高度成長期時代(1955~1973年)に計画・建設された。老朽化から建替えになり、近くに新庁舎が令和5年(2023)9月に竣工、令和6年(2024)1月から新庁舎へ業務移転した。

旧庁舎ができた1970年頃の世相を調べると、1970年大阪万博が開催、1971年大学卒男子平均初任給4万8000円、1972年沖縄返還、1973年第一次オイルショック、1974年日本の人口1億1千万人突破、1975年自動車生産台数694万台、1976年ロッキード事件、田中角栄元首相逮捕、1977年企業倒産1万8471件・負債総額2兆9780億円、1978年新東京国際空港開港、1979年イラン革命・第二次オイルショック、戦後の日本経済が一つの頂点を極め、1980年代へと移っていく時代、経済優先の結果、環境に大きな負の問題を起こした時代であった。

春日部市の1970年代前後を春日部市教育委員会編集『春日部市史』通史編Ⅱ第六巻の付録年表で市の歴史を振り返ると、自分が過ごしていた「この時代」の事を思い出す。「(前略)昭和41年(1966)・武里団地第一次入居開始、昭和42年(1971)・新市庁舎落成、昭和47年(1972)年・人口10万人、昭和48年(1973)市制20周年、市の木(キリ)・市の花(フジ)制定、昭和49年(1974)粕壁ポンプ場落成、昭和50年(1975)・16号バイパス春日部・野田市開通、昭和51年(1976)人権モデル地区に指定、昭和52年(1977)4号バイパス開通、昭和53年(1978)埼玉県春日部地方庁舎新築落成、昭和54年(1979)市の東西を結ぶ内谷陸橋が完成。(後略)」等、が記載されている。いけいけドンドンの時代だった。

春日部市は昭和41年(1966年)の武里団地の入居開始、日比谷線乗り入れを契機に、日本の高度成長期から安定成長期の昭和60年(1985)まで、年間8~9千人の人口が流入し、昭和60年には人口20万人を超える市になっている。旧庁舎は春日部市が発展する時代に大いに貢献したであろう、と思う。今は人の出入りが止まり、静かに、取り壊しと跡地建設予定の「新中央町第1公園計画」へと、変身するのを待っている。

余談ながら、運動を兼ね、自転車で春日部市の市内を散策していると、小規模な公園が多いことに気が付いた。『はて、市内に公園はどのくらいあるのだろうか』、と思い、市のホームページで調べてみると、

春日部市の公園は315ヶ所、広場は80ヶ所、計395ヶ所の管理公園があり、面積は1,200,294㎡になる。この広さは、東京ディズニーランド・510,000㎡、ディズニーシー・490,000㎡、東京ドーム・46,755㎡であることから「ディズニーランド+ディズニーシー+東京ドーム4個分」の面積にあたる。市民一人当たりでは約4.2㎡/1人、多いのか、少ないのか、よくわからない。全国平均や埼玉県平均を調べると、全国平均は9.9㎡/1人、埼玉県平均は7.1㎡/1人、これと比較すると、春日部市は一人当たりの公園面積としては少ないのだろう。

更にネットで春日部市が管理している市内の公園の詳細を調べると、小規模な公園が多い。多くの小規模な公園にはトイレがない。また、交流空間としての魅力がなく、時代のニーズに合っていないのだろう、利用者は少ないようだ。公園を設置する目的は何か、国土交通省によると、「公園を設置する目的は、人々のレクリエーションの空間、良好な都市景観の形成、都市環境の改善、都市防災性の向上、生物多様性の確保、豊かな地域づくりに資する交流の空間の提供である。」と、定義されている。公共公園の公園維持管理費は市が負担しているが、利用されない公園では管理費用の無駄ではないか、と思った。旧庁舎跡の「新中央町第1公園」は、新しい時代にあった空間、都市防災、魅力的な地域づくりに役立つ公園になって欲しい。

